



オーストリア西端に近いドルンビルンにある8階建て事務所（この建物の構法を開発したコンサルティング会社C R E E社）の木造ビルです。建設時、使用時、解体時のライフサイクルエネルギーを意識してライフサイクルタワーと命名されています。

階段室とエレベータダクトはRC造で、その他は壁パネル（集成材柱を含む）と床パネル（集成材梁+RCの複合）を用いたプレハブ構法で建っています。

以前は工事中の動画もネットに公開されていましたが、先行して階段室とエレベータダクトができた後に1層1日の工程で建ち上がっています。5階までできた時に勾配屋根を架けていますが、週末休工中の一時的な雨対策とのことでした。日本であれば、続けて建て上げてしまうところでしょうか。

延べ面積約1,600㎡、2012年竣工。

（写真撮影日：2013.10.10）

オーストリア・スイス・ドイツの3国国境のポードン湖の東端から南約10kmのドルンビルン、そのドルンビルン駅の北600m程に建っています。

<google 地図参照>

<https://www.google.co.jp/maps/@47.4234102,9.7377857,18.53z>

事務室内部

天井パネル（上階床パネル集成材梁の間）の上を設備配管スペースとしています。

照明はスイッチ配線を省き、リモコンスイッチを壁に固定してあります。

集成材の柱・梁は現しです。欧州規定の耐火試験も行われているようです。

奥行き約20m、幅約7.5m。





構造模型

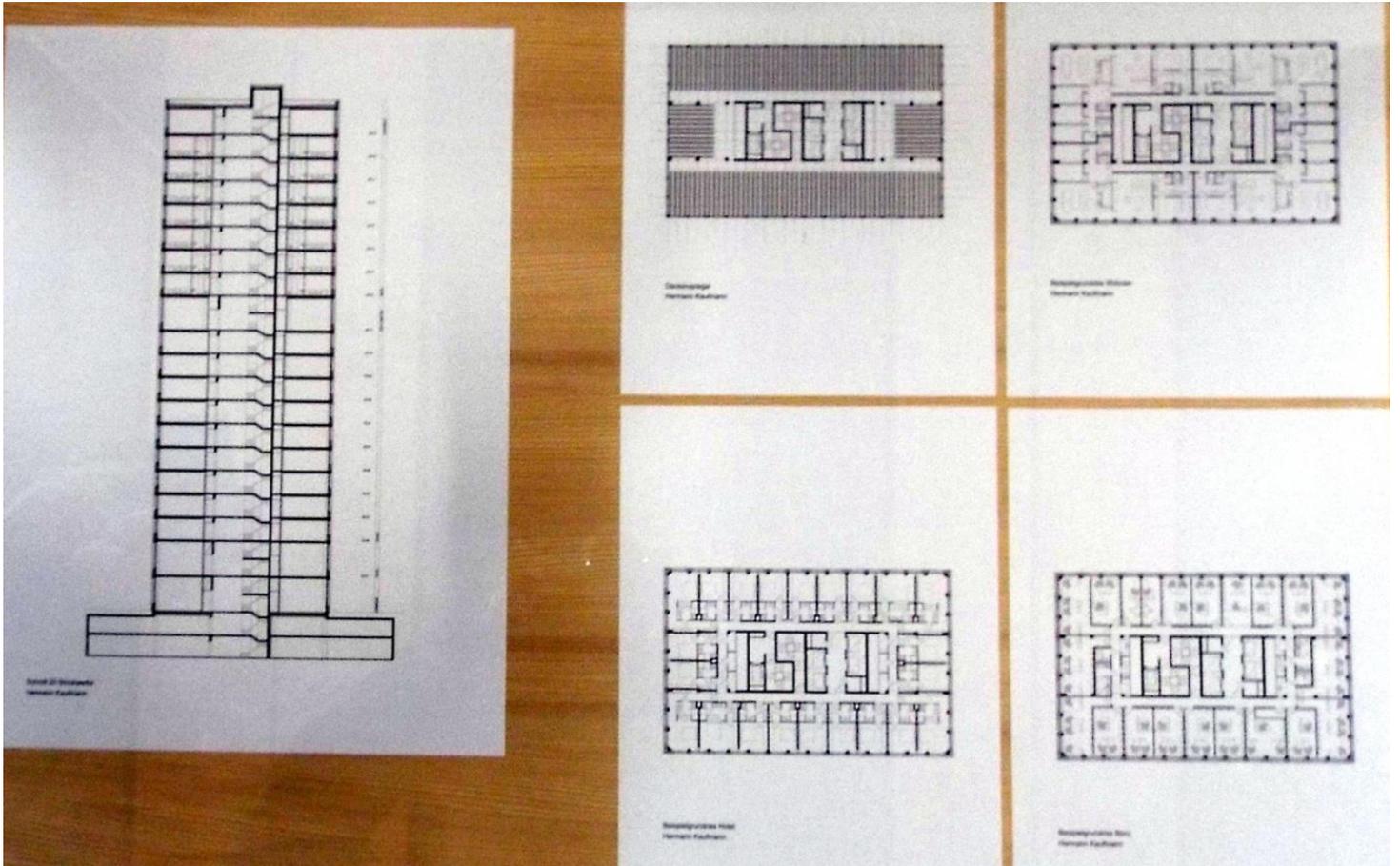
<床パネル>

240 mm×270 mm集成材梁 4 本（中央は 2 本抱合わせ）に、厚さ 80 mmのコンクリートを打ち足した 350 mm厚の複合パネルで、幅約 2.5m×長さ約 7.5m。

梁上端には 30 mm程の掘込みがあり、その部分のコンクリートは厚さが増えています。短辺には R C 梁が構成されています。

<壁パネル>

240 mm角集成材 2 本抱合わせ柱が約 2.5m間隔で並び、サッシも組込まれたカーテンウォールと一体化されたパネルで、階高分 3.3m×長さ約 8m以下。



同構法で、20 階建ても建築可能とのことで、設計図面や構造解析したことを説明する掲示もありました。

スウェーデンでは、34 階建て木造高層マンションの提案（一部 R C 造の他、下層階では鉄骨を木材で被覆した構造材も使用）もあります（2023 年に実現の計画）。

日本国内でも、木造ではありませんが、鉄骨を木材耐火被覆した構造材を用いる 10 階建て建築が、国土交通省の補助金事業に採択されていますので、数年内に木造風味のビルが竣工するかも知れません（既に同様の 4 階建てビルは建っています）。

(2018.04.02)

